

芦屋市廃棄物減量等推進審議会(11月16日)からの意見等

項目	意見等	対応・考え方
施設計画(焼却施設)	焼却処理方式の選定に関し、評価項目として施設整備費も考慮し検討を進めてはどうか。	今後実施予定のメーカーアンケートにおいて、施設整備費も把握し点検・検討を行うこととしています。 (総合評価欄記載済み:「メタンガス化+焼却方式」の建設費は割高。)
施設計画 (焼却及び資源化施設) 計画ごみ質 (プラスチック資源への対応)	プラスチックの分別収集を実施する場合、対象となるプラスチックごみの種別や分別方法が複雑で分かりにくいと思う。	分別収集を実施する場合、市民の方々への十分な周知とともに、ご理解・ご協力をいただく必要があると認識しています。
	プラスチックの分別については、環境面を優先し、市民への理解に努めていく方が良い。	環境面における検討とともに、分別に必要な費用(施設整備や収集等)も含め、総合的な検討を進めています。
	プラスチック新法の施行(令和4年4月)に伴い、製造事業者によるプラスチック製品への工夫が進むと思う。	各事業者による取組みが進められてきており、その動向については十分に把握していく必要があると認識しています。
	プラスチックも含めて現行どおり焼却する場合、プラスチックを分別・除外し焼却する場合と比較すると、焼却炉内の温度が高くなると思う。 炉内への影響(耐用年数等)も含めた検討が必要では。	プラスチックを含めたごみは水分が少なく、焼却に伴い発生する熱量は高くなります。焼却炉内の燃焼温度は約1,000度、炉内耐火物(レンガ)の耐火温度は1,500度であるため、プラスチック焼却による影響までの考慮は不要と考えますが、完全燃焼し安定した焼却処理が可能な施設となるよう検討を行います。
	プラスチック分別収集の実施が「循環型社会形成推進交付金」の交付に関し要件化されており(令和4年4月)、分別収集の実施如何は、事業費全体(歳入・歳出)を見て検討すべきである。	国からの交付金(交付率 1/3)や今後想定している発電による売電等の歳入面と、施設整備・収集・維持管理に必要な歳出面について、十分な点検・精査のもとで分別収集に関する検討も行っていきます。